

明神山から

「お母さん、あれが若草山だね。王寺駅がとても小さく見えるよ。」
「ほら、盆地の反対側を見てごらん。大和三山が見えるでしょ。きれいな形なのが耳成山。一番高いのが畝傍山で平べったいのが香具山よ。」

ヨシトはお母さんと明神山の山頂に来ています。登りで少しあせばんだほおをさわやかな風がなでていきます。

「大和三山に囲まれたところに藤原宮跡があって、もう少し南に行ったらところに明日香村があるのよ。あのあたり一帯を大切な遺跡として守っていかうと、世界遺産の登録を目指して取り組んでいるそうよ。」

「明日香村にはよく遊びに行ったね。あのあたりに行ってたんだ。」

大和三山や明日香村のあたりをながめながら、小さいころ、明日香村の歴史公園でよく遊んだことをヨシトは思い出していました。

「もし世界遺産に登録されたら、奈良県で四番目の世界遺産になるわ。」

「世界遺産ってどうして決めるの？」

ヨシトはお母さんにたずねました。

「六年生で習うと思うけど、世界の国々が集まってつくっている国際連合にあるユネスコというところが決めているわ。世界共通の財産として、これからも大切に守っていくために世界遺産としてリストに登録するのよ。今では、登録数が世界中で千件をこえていたと思うわ。」

「へえ。日本にはどれくらいあるの。」

「日本には二三件だったかな。そのうちの三件が奈良にふくまれているのよ。さっき見た若草山のとりの春日山原始林と東大寺など周辺の寺社や平城宮跡が一つの世界遺産として登録されているわ。じゃあ、法隆寺はどこかわかる？」

「王寺駅と若草山の間にあのあたりだね。」

法隆寺は王寺町の近くにあり、何度か行ったことがあるのでヨシトはすぐ見つけることができました。

「そう。法隆寺やそのまわりの斑鳩の里は、日本で初めて世界遺産に登録され



明神山から見た東側の風景

ながら、お母さんが言いました。

「昔から人々が自然や建物を大切にせずと守ってきたからこそ、こうして今も私たちが見ることができるとよ。世界遺産に登録された今では、世界の宝物として外国からも多くの人々がおとずれるようになってるわ。」

お母さんの話を聞きながら、ヨシトは人々が大切に守ってきた世界遺産のことをもっと知りたくなりました。

「お母さん、今日見た世界遺産のところに今度行ってみようよ。」
「いいよ。それに、人々が大切にしてきたのは世界遺産だけじゃないわよ。この明神山は、最近、日本遺産として認定されたのよ。自分で、日本遺産のことも調べてごらん。」

今日はおどろくことばかりだなと思いつつ、帰ってさっそく調べてみようよとヨシトは考えていました。

○ お母さんの話を聞いて、ヨシトが世界遺産のことをもっと知りたくなったのはどうしてだと思いますか。

○ 明神山が日本遺産の一つとして認定されるまでに、多くの人々の努力がありました。認定に努力した人々は、どんなことを願っていたのでしょうか。



明神山から見た南側の風景